



## セミは1日中起きているの

### セミは、夜ねる

セミは、夏になると、どれも一日中、うるさく鳴いているような気がします。でも、調べてみると、鳴き始める時期がちがいますし、1日のうちで、鳴く時間がちがっていたり、決まった時間しか鳴かないものがあります。夜が明け始めるころから鳴き出すニイニイゼミは、一日中鳴いています。明け方と夕方しか鳴かないヒグラシもいます。天気の良い午前中しか鳴かないハルゼミなどもいます。クロイワゼミというセミは、午後7時15分から30分までの間しか鳴かないということで有名です。

朝、早起きのものはいますが、どのセミも、夜はほとんど活動しません。ですから、セミは夜ねているのです。

### セミは、明るさと温度で鳴き出すものが多い

いちばん朝早くから鳴き出すニイニイゼミは、温度が20度以上で、一定以上の明るさがあると、鳴き始めます。ニイニイゼミと同じころ鳴き出して、すぐ鳴きやむのはヒグラシで、次にアブラゼミという順で鳴き始めます。雨が降って気温が急に下がったり、雨がやんで急に気温がぐんと上がったりすると、よく鳴く時間帯がくるってしまふことがあります。セミの種類によって、それぞれ、鳴くのにあつた明るさとか温度があるのでしょうか。

セミは、木の幹などにとまって、ねていることが多いのですが、昼間と同じかっこうでとまっていて、人が近づいたりするとにげだします。チョウやトンボなどは、こんなことはないので、セミは夜でも、ぐっすりねむってはいないようです。ニイニイゼミは、外灯などが明るいと、夜でも鳴くことがあります。（監修・中山 周平）

